美術講座
「回想『祈りの道 吉野・熊野・高野の名宝』展を中心に」
講師：石井幸彦 美術評論家

1月14日(日) 参加者73名

開催について

9月中旬、世田谷美術館の学芸員であった石井幸彦氏に1月に開催する美術講座を依頼することになりお会いした。石井氏には回想として「祈りの道　吉野・熊野・高野の名宝」展(2004年11月20日～2005年1月23日)についての講座をお願いすることになった。

蔵王権現立像の運搬や展示室への搬入方法など担当者ならではのお話しはとても興味深いものであった。右手を振り上げ髪の毛は逆立ち片足で立っている。その高さは459cm。図録で拝見するだけでも迫力のあるお姿である。これが展示されていた。吉野・金峯山寺で見るのとは違う迫力であったに違いない。速玉大社の国宝の漆箱、彩色檜扇の撮影秘話もお聞きできるという。展覧会の裏側が20年近く経った今、披露されることにワクワクした。

盛り沢山の内容である。90分という時間で足りるのだろうか。いや数多くの大規模展覧会をやってのけた方だから大丈夫。面白い講座になるだろう。終了後の感動の声が聴こえるような気がして打合せを終えた。

予想どおりとても充実した内容の講座であった。お話しのあった名品の数々をいつ見に行こう。現地で本物に会いたいと思った。

(友の会事務局)

第36回　友の会会員作品展
世田谷美術館区民ギャラリーにて
11月15日(水)～19日(日)
出品者95名　出品作品数181点　講師特別出品7点
酒井忠康館長推賞 TOTTEMOII賞22点
講評：村上由美 学芸部長

「友の会会員作品展」に参加して

菊地廣一

11月の秋晴れの日、作品展を見に行った。自分の作品を出品するのも、見るのも初めてである。

この絵の光り輝くような赤はどのように作ったのだろう。そして画面のすみずみまでに神経が行き届いた筆づかい。どれだけ時間がかかったのだろうか。敬服するばかりだ。

この彫刻の幸せそうな顔。単純な形の中に作者の温かい眼差しを感じる。

こんな小さな枠の中にこれだけの世界を描くことができるんだ。何だか吸い込まれるような気がする。

この絵を見ていると懐かしいような、少し寂しいような気持ちがするのはどうしてなんだろう。ずっと見続けていたい。こんな絵が描けたら……。

小学生の頃、絵を描いても「ややおとる」としか評価してもらえなかった私が、こんなに大きな展覧会に出品することになるとは不思議な気がする。でも、みなさんの作品を見ていると、また、来年も出そうと思えるから何とも愉快な気持ちになる。

友の会主催　解説・鑑賞会
「土方久功と柚木沙弥郎――熱き体験と創作の愉しみ」
解説：樋口茉呂奈 学芸員

9月23日(土) 参加者29名

問山容子

4月に入会させていただいたばかりの超初心者です。恥ずかしながら両氏の作品は初めて拝見させていただいたのですが、「なぜだかほっとする」「なぜだか好き！」でした。そういう思いの所以は、今回の樋口学芸員のお話を伺って納得しました。

お二人とも枠を超えた創作活動をされていらして、土方先生は玄人の芸術(知識、技巧)は嫌い、柚木先生は日常の身近なものをモチーフにされていらっしゃると教えていただきました。土方先生の絵本の子豚のモチーフは姪御さんがお好きだったものとのお話、柚木先生のアトリエの小物たちのこと、布の展示の工夫などなど。

自分ひとりでただ鑑賞しただけでは到底追いつかない知識量を、わずかな間に沢山埋めていただき、その後の2度目の鑑賞では奥行のある時間に変化したことは言うまでもありません。100歳を超えてなおお元気な柚木先生の日々はわくわくして楽しまなくちゃとのお心も印象的で、お二人のことがもっと好きになりました。ありがとうございました。

友の会主催　解説・鑑賞会
「倉俣史朗のデザイン――記憶のなかの小宇宙」
解説：野田尚稔 学芸員

12月10日(日) 参加者70名

庭野敦也

講演は、倉俣史朗の代表的な作品の紹介から始まり、倉俣史朗の生まれた時代背景と疎開時代に受けた全体主義への反発。工業高校を卒業した後のキャリア。エットレ・ソットサスとの出会いと「メンフィス」への参加。その後、《ミス・ブランチ》が誕生するまでの作品の変遷など。途中わき道にそれながら、いつもの野田節でご講話いただきました。

そこで、倉俣史朗の作品を通じて浮かび上がる「開放」と「浮遊」というコンセプト。なるほどなと頷きながら聞いていると、だんだん自分の頭の中が整理され、倉俣史朗の作品に惹かれる理由が分かってきた。それは、機能第一主義的なものだけでは愛着がわかず、すこし繊細で詩的な部分に惹かれる。そんな作品が自分は結構好きだということ。機能第一主義に辟易している自分がいること。私が《ミス・ブランチ》の作品を見たときに忘れられないほど印象深く、心を揺さぶられたような何か。その何かについて、今回の講演によってひとつの答えが出た気がします。

水墨画講座
講師：佐藤良助

8月23日(水)～10月11日(水) 全8回　参加者25名

小室みどり

今回の水墨画講座のテーマは「仏のほほえみ、墨で描く抽象画」でした。

毎回、先生がくださるお手本を参考にしながら、自分で好きなように描いていきます。これが正しい描き方ですと言われることはないので作品は十人十色、それぞれひとつとして同じものはありません。

抽象というのはひきだすという意味だそうで、対象の中から自分がこれと思う特徴を描いていくことだそうです。抽象画ってどうやって描くのかなと思っていた私には驚きの発見でした。

墨には濃淡、にじみ、ぼかし、かすれがあり、顔彩を使って色もつけられるので思っていたよりも表現に幅がある感じがしました。なんとなく日本的な雰囲気もあります。

最後の回は、講評会でした。本当に多様な仏様や抽象画を見ることができて楽しい講座でした。

銅版画講座
講師：浦辺佳奈枝

9月1日(金)～10月6日(金) 全6回　参加者16名

豊崎雅子

昨年度の世田谷美術館美術大学で初めて触れた銅版画。これまではほとんど興味なく、たまに目にしても暗くてあまり好きではありませんでした。しかし授業が始まると、実に多くの表現方法があることなどがわかり、興味がわきました。それで、今年1月からのステップアップ講座を受けたものの中途半端なまま終了。その後、今回の講座を知り喜んで飛びつきました。

講座の中では、他の受講生の方々の作品が素晴らしく、圧倒されました。テーマの選び方、対象の切り取り方、テーマに即した表現方法……それぞれが個性的で、とても刺激になりました。浦辺先生は、それぞれの作品にあった的確な指導をされており、稚拙な私の作品も少し改善されて、嬉しく思っています。

皆さんの作品を拝見し、3回目にして、ようやく銅版画がほんのわずかわかったような気がします。それを忘れないうちに、早く次の講座を受けたいと心から願っています。

水彩画講座
講師：板倉美智子

10月13日(金)～27日(金) 全3回　参加者17名

大川哲史

水彩画講座は4年ぶり2度目の受講だった。ふだん水彩画はあまり描かないが今後描いていくきっかけになればとの思いで参加した。今回の講座は計3回でうち2回は創作室での静物画作成、1回は日比谷公園での屋外写生である。初回は3箇所に色々なモチーフが設置されており、おのおの気に入ったものを描いていく。私はぶどうの実と葉、流木等を題材として描く。2回目は10時半に日比谷公園に集合。おのおの気にいった題材を描いていく。私は水辺を描きたかったので雲形池を題材に選んだ。天気もよく快適に描けた。3回目は初回とは異なるモチーフが設置されておりおのおの描いていく。後半に今回の講座で描いた作品を一人ずつ発表。先生より作品ごとにご講評、ご指導していただいた。皆さんの作品は人それぞれ題材も描き方も様々で、それを見るだけでもいろいろ参考、勉強になった。3回通して先生が一番強調されたことは「自分が描きたいと思うものを描きなさい。そう思えない限りいい絵は描けない」ということであった。あっという間の3回でしたがご指導ありがとうございました。

分館ギャラリートーク
清川泰次記念ギャラリー「清川泰次のすべて」展
解説：伊藤まりん 学芸員

11月25日(土)　参加者17名

清川泰次(1919-2000)の没後3年を経て開館した当ギャラリーで開催された開館20周年記念展、コロナ禍で4年ぶりに開催できた友の会主催のギャラリートーク、始まるまではどれだけの参加者があるのか不安でしたが、旧アトリエを活用した展示室の広さには丁度よい人数でした。

今回のトークでは、画家が1954(昭和29)年にはパリで藤田嗣治(1886-1968)のアトリエを訪問し写真を撮影していたこと、早い時期からカラーフィルムでの撮影を試みていたことなど、画業とは違った足跡を知ることができました。

一方で、1970年代から80年代にかけて白く塗ったカンヴァスにグレーなどで線を引くスタイルで制作を重ねていらっしゃいました。展覧会チラシに用いられた鮮やかな青色の《イタリーの空》(1962年)と見比べてどちらに共感するのか、作風の変遷とあわせて考える楽しい時間を過ごすことができました。

今回がギャラリートークデビューとなる伊藤学芸員には、参加者の質問にも丁寧にわかりやすく答えていただきました。今後も友の会事業にお力添えを大いに期待するところです。　(友の会総務部)

第61回　秋の美術館めぐり
北澤美術館～ハーモ美術館

11月10日(金)　参加者37名

「美術館めぐり」に参加して

田辺千恵子

11月10日雨降りとの予想を抱え、バスは信州諏訪湖に向け世田谷美術館を出発。途中傘をさす事もありましたが、かえって霧が立ち込めた山々の裾野に黄・紅葉が広がり、移り行く景色を楽しめた事も旅の良い思い出になりました。

飲み物サービス充実のバス内で、今回同行して頂いた世田美学芸員の樋口茉呂奈さんの内容濃い解説で、これから訪ねる美術館への期待が高まり、昼食後先ずは諏訪湖畔に佇む北澤美術館を訪ね、エミール・ガレ、ルネ・ラリック、ドーム兄弟のガラス工芸と現代日本画を鑑賞しました。やはりガレの自然への眼差しも「我が根は森の奥深くにあり」が原点で、技術と共に表現した作品群は圧巻でした。

更に湖畔を少し巡りモダンな外観でティーセントホールを配したハーモ美術館を訪ね、元世田美学芸員で今年より館長に就任された遠藤望さんの解説を受け、アンリ・ルソー、グランマ・モーゼス、ジョルジュ・ルオー等の充実した作品を楽しみました。晴れであれば湖畔対岸に富士山を望む事が出来る絶景に立ち会える美術館！また別の季節に訪ねてみたい思いを胸に帰路につきました。

世田谷美術館ボランティア活動

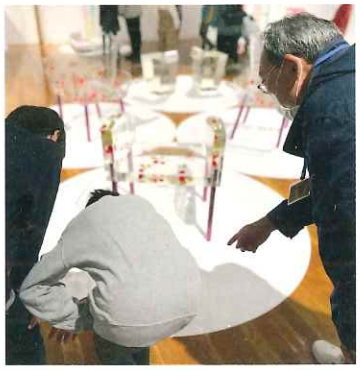
鑑賞リーダー

加藤英一

世田谷区では、区立の小学4年生を世田谷美術館に無料で招待しています。

学芸員と鑑賞リーダーと呼ばれるボランティアが協力し、子ども達と一緒になって作品を鑑賞し、子どもとコミュニケーションをとる中で、美術や美術館に親しみを持ってもらいます。

私は美術に詳しくないので、鑑賞リーダーといっても作品の解説はできないので、基本子どもと一緒に作品を見て回る。怖い絵だね、何に見える？この絵で何を感じる？すごいね！とか言いながら、何とかやっています。



「チェコ・デザイン100年の旅」(会期：2019年9月14日～11月10日)でアルフォンス・ミュシャの作品が展示されている時のこと、ある子が家にもミュシャの作品が沢山あるよ、と入口を入った時突然言い放ち、やけに詳しいので、その子を鑑賞リーダーに任命してほかの子どもと一緒になってついて回ったこともありました。その子は中学からスイスの中学に行くと言っていました。結構衝撃。

私もたまにしか参加できていませんが、最近鑑賞リーダーの人数が足りず、受け持ちの子どもの人数が多くなり本来の目的のコミュニケーションを密にできない場合もあります。皆さま、美術が好きならどなたでも登録できますので、気軽に子どもと美術鑑賞楽しみませんか？

＊2ページの「美術鑑賞教室へのおさそい」もあわせてお読みください。

第35回　アート散歩
岡本太郎記念館～ヨックモックミュージアム

10月26日(木)　参加者24名

「アート散歩」に参加して

後藤初美

岡本太郎が1954年から42年間にわたって住み、作品を作り続けたアトリエ「岡本太郎記念館」は、住宅街にひっそりと、しかし堂々と佇んでTAROファンを待っていてくれました。私は、このエントランスで祈りました。「太郎さん、どうか私にパワーを、私の中に入って芸術は爆発だ!!!ってやって下さい」と。

サロンには本人がシリコンに埋まって作った太郎マネキン、奥に続くジャングルのような庭には太郎彫刻がニッコリ顔を出していました。何よりも感動したのはアトリエです。床に飛び散った絵具など、すべて当時のままのTARO空間、そのパワーに圧倒されました。

次の目的地は「ヨックモックミュージアム」、「ピカソいのちの讃歌」の展示でした。

第二次世界大戦後、南仏に移り様々な生きものをモティーフにセラミックに熱中したピカソ。その作品には、多くの人々がアートに触れられるようにと望んだピカソの優しさが感じられました。

岡本太郎はフランスでピカソの作品に出会い、強く惹かれたそうです。同じ時代を生き、戦争、疫病など「生と死」に直面しながらも、後世に偉大な作品と情熱を残してくれた二人のアーティストに触れられた、思い出に残るアート散歩でした。

ご寄付のお礼及びキャンペーンの終了について

会の存続と美術館支援のための寄付金が2024年2月末日現在、累計で1,444,348円となりました。2021年1月から始めたこの寄付募集のキャンペーンですが、新型コロナウイルスも収まりつつある現状を考慮し、3月末日をもって終了といたします。この間さまざまな困難を乗り越えるための糧とさせていただきました。改めてご協力をいただきました皆さまに心より感謝を申し上げます。なお友の会は今後も皆さまの会費と普段の寄付金により運営してまいりますので、引き続きご協力を賜りたく、切にお願い申し上げます。

匿名3名(前回以降)

会費と寄付金の郵便口座
口座記号：001303　口座番号：119860
名称：世田谷美術館友の会

新しい会員証

2024年度の会員証のデザインが決まりました。
会員証の作品は収蔵品の中から選んでいます。

大沢昌助《室内(5)》
『大沢昌助 石版画集』より 1972年

これからの事業について

◎アート散歩　3月15日(金)
◎さくら祭　3月30日(土)、31日(日)
◎友の会総会　5月予定
◎解説・鑑賞会　企画展・ミュージアム コレクション展ごとに予定

＊2024年度の各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。

世田谷美術館友の会に入会しませんか！

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「藝術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。

お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や下記ホームページもご覧ください。

Tel. 03-3416-0607
https:// setabi-tomonokai.jp/